

毛越寺南大門跡

南大門は、聖域である毛越寺を象徴する門だったとされます。平泉を訪れる人たちが最初に目にしたのも、この南大門でした。13 世紀に編纂された、鎌倉時代（1185–1333 年）の歴史的記録「吾妻鏡」には、「大きな二階惣門だった」と、門の大きさや形が描写されています。

毛越寺の発掘調査の結果、南大門の十二の礎石が発見され、もともと門があった位置がわかりました。さらに、この巨大な門を構成したとされる堀と溝の跡も明らかになりました。これらは、歴史書「吾妻鏡」にある記述と一致する発見でした。これらの発見から、毛越寺の規模は、日本の平安時代の都（794–1185）であった平安京の宮城に、まさるとも劣らないものだったと研究者たちは推測しています。